



# 商店街だからこそできる防災まちづくり 防災をフェーズフリーにする『まちなか防災訓練』



東京都品川区戸越銀座商店街連合会  
防災まちづくりフェア企画運営担当 鳥山 あゆ美

## 1 取組の背景

戸越銀座商店街連合会は、東急池上線の「戸越銀座駅」に接し、全長約1.3kmにわたる関東有数の長さを誇る商店街で、商店街沿いには350店舗以上が軒を連ねています。

当商店街では、電柱の地中化など、10年以上前から防災に取り組んできました。2020年のコロナ禍当初には、戸越銀座商店街では来街者が増加し、感染防止の点から厳しい苦情の声が寄せられましたが、同時に住民の方からは応援の声もいただきました。商店街では「今後はよりいっそう、地元住民の方々のためになることに重きを置いていこう」と決意。木密で不燃化特区という地域課題とも結びつき、住民の安全・安心な暮らしにつながる「防災」というテーマに辿り着きました。

その流れから、2021年よりパナソニックホームズ株式会社に加え株式会社HITOTOWAも防災まちづくりに巻き込み、商店街として長く続けてきたお祭りを防災イベントに切り替え、大きく舵を切りました。

## 2 取組の内容

「防災まちづくりフェア」と名づけ、商店街の通りを使った防災訓練「まちなか防災訓練」や、近隣小学校を会場としたサッカーをしながら親子で楽しく防災を学ぶ「まちなか防災サッカー & 避難所体験」を開

催しています。

●防災をフェーズフリーにする取組み「まちなか防災訓練」

「(わざわざ) 防災訓練に行く」ではなく「(訪れた場所に) 防災訓練がある」ようにすれば、より多くの方に防災体験をしてもらえるのではないかと発想したことから、商店街の通りを使った防災訓練「まちなか防災訓練」を開催しています。

●商店街の役割と特長を再定義し、商店街が持つネットワークと場を活用。

商店街を学びのプラットフォームと位置づけ、商店街が持つ多様な主体とのネットワークを生かした企画としたことが鍵となりました。商店街の理念に共感してくれるパートナー企業とタッグを組み、持続可能な取り組み体制を確立したこともポイントになったと感じています。

●「体験する」「楽しいと思える」防災プログラムを実施



イベント開始合図を商店主などによる一斉消火訓練に



防災紙芝居を楽しんでいる子どもたち



防災クイズラリー参加後には感想を共有

まちなか防災訓練の際には、水消火器や放水体験を複数の場所で体験できるプログラムを並べたり、商店街を歩きながら防災のクイズを解いていくクイズラリーを発案したり、自ら気づきを得られるようなプログラムを実現させてきました。

「まちなか防災サッカー」は、FC東京の協力を得て実現した、サッカーをしながら防災を学ぶコンテンツ。保護者としては子どもに防災を学ばせたいというニーズが満たされ、運営側としては、若い世代の方にメッセージを伝えたいという目的を達成することができます。



身体を動かしながら防災クイズに挑戦  
(まちなか防災サッカーにて)

### 3 取組の成果

取り組みを始めて約2年、戸越銀座商店街にお住まいの方の防災に対する意識や取り組み状況は、他のエリアの方に比べると、参加前から防災に対する意識や取り組み状況がそもそも高い傾向にあっただけでなく、参加後はさらに高まるという結果が得られました。

協力団体数も増えたほか、まちなか防災訓練開催日当日、本来定休日のところ自主的にお店を開け、備蓄品の啓発を実施する商店があるなど、それぞれが防災を自分ごととして捉え、何ができるかを考える機会になったと考えています。

### 4 今後について

住民の取り組みの認知度や防災意識の変化が見られていることから、次のステップとして「防災人づくり」に取り組みたいと考えています。それぞれが主体的に自助に取り組み、さらには共助の体制づくりとして、つながりを作る。そんな姿を目指して引き続き多様な主体と連携し、商店街ならではの防災まちづくりを推進していきます。